

団長の独り言

「仕込みの日」

10月19日(水)朝6時半。埼玉県某所の劇団倉庫に、十数名のメンバーが笑顔で集まり、大道具やソファ、テーブル等の積み込み開始。

気温は16度か17度かそのくらいで、じっとしていても、特に暑くもなく寒くもなく青空の広がるいい天気。

第41回公演「久美・美容室物語板橋公演」の本番初日を明日に控え、この日劇場入りだ。

いつもの劇団ふあんハウス公演は、真夏か真冬に行くので、早朝の倉庫での積み込みの時ってのは、暑いか寒いかのどちらかなのに、今回は1年で一番過ごしやすい時期の公演とあって、着るものもちょっと悩んだけれど、いいねえー秋の公演って。

2月に赤坂で行った「久美・美容室物語」が終了して以来、倉庫に眠っていた道具類達が、また目の目を見る時がきた。

全員で手分けしながらの積み込み作業。約1時間後、2トンワイドロングの箱車トラックの荷台は満載状態となり、劇団ふあんハウスの「夢」がいっぱい詰まったトラックは倉庫を出発。

そのトラックを拍手して一礼しながら皆で見送り、メンバー達も平野カーと千秋カーに分乗して、夢舞台となる板橋区立文化会館へ。

平日の都心の大渋滞を抜け、約1時間15分掛けて劇場に到着すると、間もなくして各スタッフさんもやってきたので、搬入口前でみんな楽しく雑談タイム。そして午前9時「かいもおくん!!!」

雪崩を打つように全員が楽屋口より劇場へと吸い込まれ、各セクションに分かれ、搬入・仕込みの開始だ! ガラソンとした何もない舞台上に道具類が運び込まれて、照明機材の吊り込み、大きな音響操作盤とスピーカーの設置、プロのスタッフさんとメンバーが入り混じり、様々な作業を行い、久美・美容室が形になっていく。一方のロビーでは、メンバー達による受付周りのセティングと、楽屋ではパンフにチラシを折り込む作業が進む。みーんなどこか楽しそうだね。

高橋舞台監督の指揮のもと、舞台面の仕込みは順調に進み、劇団メンバー達によるロビーのセティングや楽屋作業も問題なくはかどり、各ポジションごとに昼食休憩を1時間取り、劇場全体が、劇団ふあんハウス色に染まっていく。

私はと言えば、まり恵さん(萱場まり恵)とともに、プロジェクターの設置。

これが意外と手間取った...。当初予定していた場所での投影が、電源が取れないとか、照明機材の邪魔をしようとか...何かと問題点があり、プロジェクターとパソコンを手に2人でウロウロして、「よっしゃ!」と思う場所をようやく発見したので投影するが...

何せ舞台上では、照明さんも大道具さんも明るい中で作業を行っているので、「場内を暗くしてちょーだい!」「紗幕を降ろしてちょーだい!」って言える雰囲気ではない。(紗幕...細かい目の網状の幕で、今回、プロジェクターからの文字を投影する予定)

そこで私とまり恵さんは、皆さんの邪魔をしないように工夫と勘で、投影する文字の調整作業を行う。

そんな私達の姿に気づいた舞台監督の高橋さんが、「紗幕、ある程度まで下ろしましょうか?」って、ありがたい事を言っただけだったので、お言葉に甘えまして、紗幕を途中まで下ろしていただき、そこに文字を映し、文字の角度、傾き、大きさをミリ単位で調整、一応上手いときで、果たしてちゃんと映るかどうかが、ちよいと不安を残しつつ、プロジェクターの出番となる数時間後に行われる場当たり時の時を待つことにした。

そここうしていると、美術の三井優子さんが考案、制作して下さったとても素敵な舞台セット建ちあがり、照明の吊り込みも完成したので、今度は各道具類(ソファセットやテーブル等)の位置決め作業。

ここから私は仕込みの作業を行う劇団メンバーから演出家に変身し、客席に降りて、舞台上に並ぶソファ等の位置を

「あと5寸上手く」とか、あーだとかこーだとか、舞台セットとのバランスを見ながら指示を出し、役者の動きの邪魔にならないような場所への微調整を行うと、その舞台セットの位置に合わせ、照明さんが明かりの調整をしてくれる。

そして照明さんのシエート(色合いを決める作業)、音響さんのサウンドチェック等を経て、午後6時30分、場当たりが始まる。(場面ごとに照明、音響、役者が入っての場面変化の具合やきっかけを合わせる作業)

この場当たりという作業は、実際の舞台セットを使って、照明の明るさ、音響のバランス、それら全てのタイミングを計る確認作業なので、稽古場では絶対に出来ない。

照明や音響が演出の希望通りなのか? 各セクションの場面転換がスムーズにいくのか? 等を細かくチェックしていくので、当然ながら、この場当たりには相当の神経と時間を使う。

とってもスムーズに進むシーンもあれば、何度となく修正を施すシーンもあるが、私の癖をよく把握して下っている「ザ・平野組」の皆様なので大きな問題もなく、プロジェクターの文字も、なんかすごくいい感じで紗幕に浮かび上がり、午後9時20分、この日の全工程は終了。

明日はいよいよ初日! 心地よい疲れを残し、帰路に就いたのでした。